

# 社会党と江田ビジョン

## ～党内対立と政策転換の失敗～

### 0. はじめに

日本社会党は終戦直後の 1945 年に結成され、1996 年の社会民主党への党名変更まで、戦後の長きに渡って存在してきた政党である。1947 年から 1948 年にかけて、片山政権と芦田政権に参画したが、その後は党内対立が主な原因となり、政権を担うのに必要となる具体的な政策や方向性を打ち出せず、支持も低迷した。

今回の勉強会では、実現することの出来なかった党改革の試みである江田三郎の唱えた『江田ビジョン』を巡る動きを通じて、戦後政治史での日本社会党（以下”社会党”と略す）の行動について考えてみたい。

### 1. 社会党の成立過程

- ・西尾末広、片山哲ら反軍部色の強い右派系労働・農民運動を担った社会民衆党（社民）系
  - ・河上丈太郎ら右派系で戦争に協力的だった日本農労党（日労）系
  - ・鈴木茂三郎らマルクス主義に近い立場を取る日本無産党（日無）系
- 終戦直後に西尾らが中心となり、戦前の無産政党系の政治勢力を結集。幅広い思想・主義・政策の集合体。

### 2. 社会党が抱えた問題

2-a 党名を巡る論争 「社会民主党」か「日本社会党」か

→日本語名を「日本社会党」、英語名称を Social Democratic Party of Japan(SDPJ)とすることで決着

2-b 森戸・稲村論争 社会民主主義とマルクス主義の対立

→社会党は「階級的国民政党」

2-c サンフランシスコ講和条約への対応の違いにより 1951 年に左右に分裂

→総評の全面的な支援を受けた左派を中心に議席を伸ばす

→1955 年に再統一するも、政策や方向性の一致を図る議論は不十分

社会党は成立当初から、社会民主主義的な政策を志向する右派とマルクス・レーニン主義に立脚する左派の間に党の基本姿勢を巡る決定的な対立を抱えていた。

2-d 右派と左派の対立→妥協に落ち着き、現実を見据えた具体的な政策が提示できない

(参考資料 図 1-7、図 1-8 を参照)

→1959 年の参議院選挙「敗北」後の「西尾談話」

「安保条約」の解消のためにはこれに代わる安全保障体制とそれに至る具体的な道筋の提示が必要。

→左派や総評が反発し、党統制委員会で西尾を処分

→社会党結成の功労者である西尾らの離党（1959）、民主社会党（後の民社党）の結成（1960）

### 3. 江田ビジョンと政策転換への試み～構造改革論争～

3-a 同じ頃、海外では・・・

- ・西ドイツ社会民主党 『ゴータスベルグ綱領』(1959年)  
→「階級政党」から「国民政党」へ、「野党主義」から「政権政党」へ。
- ・イタリア共産党「構造改革」  
→暴力革命を排除し、長期的な社会全体の改良を目指す。

→これらの流れを元に江田三郎が唱えたものが『社会主義への新しいビジョン』(1962年)

江田ビジョンで提示された社会党が目指すべき未来像

- ・アメリカの高い生活水準
- ・ソ連の徹底した社会保障
- ・イギリスの議会制民主主義
- ・日本の平和憲法

『江田ビジョン』は新聞等で報道され、江田三郎の分かりやすい語り口とも相まって大きな話題になった。

→しかし、マルクス主義に立脚する党内左派、社会主義協会は資本主義を温存する「改良主義」であるとして反発し、左派色の強い『日本における社会主義への道』を発表。

### 4. 党内対立の激化と長期低迷

4-a 社会党内部の問題 (参考資料 図1-7、図1-8を参照)

- ・構造改革を受容する勢力と反対する勢力との対立→江田三郎社会党離党(1977年)
- ・国民からの幅広い支持を得るための戦略的な行動が取れない
- ・党内対立による党組織の疲弊
- ・党の支持基盤の脆弱性  
→党員数約5万人(1960年代当時)→自民党や共産党と比較して圧倒的に少ない数字
- ・労組の労使協調路線の拡大による、社会党支持基盤の弱体化  
→党員数が少なく、日常運動や選挙活動でも労組への依存度が高かったため大きな打撃となり  
結果として人材難に(参考資料 図1-3を参照)

4-b 社会党外部の問題

- ・多党化の伸展(公明党の進出、民社党の結党)
- ・自民党の幅広い政策展開

### 5. おわりに

- ・左派の純化路線の限界
- ・政党間の政策論争を通じた戦後政治の別の可能性?

## 【参考文献】

『戦後政治史の中の日本社会党』（原彬久、中公新書、2000年）

『日本社会党 戦後革新の思想と行動』（山口二郎、石川真澄、日本経済評論社、2003年）

『戦後政治史』（石川真澄、岩波新書、1995年）

『日本社会党の研究』（森裕城、木鐸社、2001年）

『社会党に騙された』（野村旗守、宝島社、2003年）

『新しい政治をめざして』（江田三郎、日本評論社、1977年）

<http://www.eda-jp.com/saburou/seiji/index.html>（江田五月参議院議員公式HP上でも閲覧可能）

## 【参考資料】

### 衆議院選挙への対応と結果（社会党）

衆議院選挙（実施年）	当選/候補者	定数	備考
・結党時	15/-	468	公職追放-10
第22回総選挙(1946)	93/331	468	追加公認+3
第23回総選挙(1947)	143/289	466	追加公認+1
第24回総選挙(1949)	48/187	466	
・右派社会党			
第25回総選挙(1952)	57/109	466	追加公認+3
第26回総選挙(1953)	66/117	466	
第27回総選挙(1955)	67/122	467	
・左派社会党			
第25回総選挙(1952)	54/96	466	追加公認+2
第26回総選挙(1953)	72/108	466	
第27回総選挙(1955)	89/121	467	
・再統一後			
第28回総選挙(1958)	166/246	467	追加公認+1
第29回総選挙(1960)	145/186	467	離党-1
第30回総選挙(1963)	144/198	467	
第31回総選挙(1967)	140/209	486	追加公認+1
第32回総選挙(1969)	90/183	486	
第33回総選挙(1972)	118/161	491	
第34回総選挙(1976)	123/162	511	繰り上げ当選+1
第35回総選挙(1979)	107/157	511	
第36回総選挙(1980)	107/149	511	
第37回総選挙(1983)	112/144	511	追加公認+1
第38回総選挙(1986)	85/138	512	追加公認+1
第39回総選挙(1990)	136/149	512	追加公認+3
第40回総選挙(1993)	70/142	511	追加公認+3

衆議院選挙への対応と結果 (自民党)

衆議院選挙 (実施年)	当選/候補者	定数	備考
・結党時	99/-	467	「自民党のあゆみ」によれば、298
第28回総選挙(1958)	287/413	467	追加公認+11
第29回総選挙(1960)	296/399	467	追加公認+4
第30回総選挙(1963)	283/359	467	追加公認+11
第31回総選挙(1967)	277/342	486	追加公認+3
第32回総選挙(1969)	288/328	486	追加公認+12
第33回総選挙(1972)	271/339	491	追加公認+13
第34回総選挙(1976)	249/320	511	追加公認+12、死去-1
第35回総選挙(1979)	248/322	511	追加公認+10
第36回総選挙(1980)	284/310	511	追加公認+3
第37回総選挙(1983)	250/339	511	追加公認+9
第38回総選挙(1986)	300/322	512	追加公認+4、新自由クラブより合流+5
第39回総選挙(1990)	275/338	512	追加公認+11
第40回総選挙(1993)	223/285	511	追加公認+8、離党-3

(引用元：石川真澄『戦後政治史』 衆議院議員総選挙・基本数字)

図 1-7 社会党の認識における有権者分布の変動

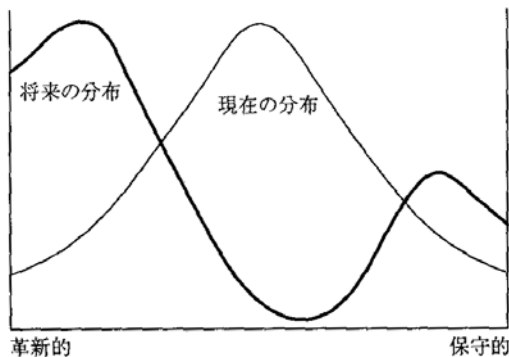


図 1-8 2つの選挙競争空間における保守イデオロギー

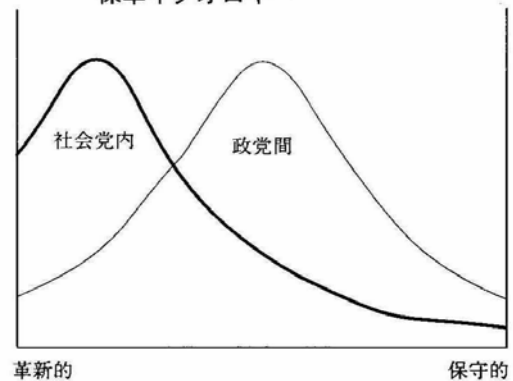
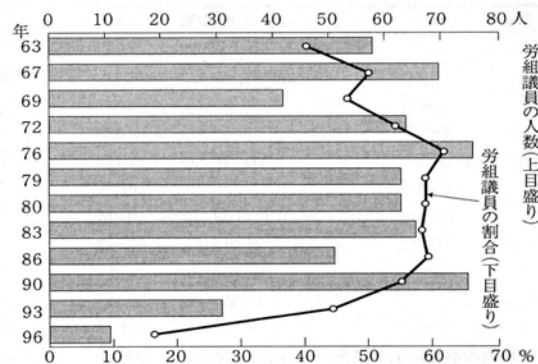


図 1-3 社会党系議員に占める労働組合出身者の推移



注：衆院=96年は旧民主党と社民党で見た。  
出所：『朝日新聞』1998年8月18日。

(引用元：森裕城『日本社会党の研究』 第1章 社会党研究の共時的視角)